

論語に学び、豊かな社会を

出雲で「論語の風山陰大会」

出雲市浜町の出雲文化伝承館内、縁結び交流館で十三日、「第二回論語の風・山陰大会」が開かれ、全国各地の論語教室で講師を務める、安岡定子氏が「15歳の寺子屋」と題して講演した。

安岡定子さんが講演



マイクを置き、論語の章句を声に出して読む安岡定子さんと参加者ら=13日、出雲市浜町、出雲文化伝承館内、縁結び交流館で

論語の教えを広く伝え、人材の育成、豊かな地域社会づくりをしよう」と、県内の幼稚園や学童保育、福祉施設などで論語の事前講座や講師の養成などを行っている、めだか論語普及会(佐藤京子代表)の主催。第一回大会は昨年三月、鳥取県湯梨浜町にある燕趙園で行われている。安岡氏は陽明学者で思想家の故安岡正篤氏の孫にあたる。

安岡氏は講演の中で、孔子が十五歳で学問の道を選んだことや、その後の人生、孔子が生きた時代背景を説明し「孔子にとって、仁、思いやりの気持ちを持った良き人材を育成することが、良き国づくりの理想だった」と語った。また、論語のなかのいくつかの章句を、解説を加えながら来場者とともに声に出して読み、「子どもは首で楽しむ、大人は言葉で楽しむことができる。論語の学習はいつ始め

える来場者が訪れ、講演に熱心に耳を傾けていた。同市斐川町上直江から訪れた渡部妙子さんと井原加代子さんは今回が初めての参加。「最初は難しいかと思っただけれど、少しずつ理解が深まっていった。こういった昔の人の教えを、もっと多くの子どもたちに学んでもらいたいと思った」と感想を話していた。

会場には二百人を超